



第15回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開されている関西の先生方にご講演をいただき、製薬、医療機器、診断薬、健康食品、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・医療産業に対するインスピレーションと産業化へのイマジネーションを感じていただくことを目的としています。このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティの醸成と、産官学の対話促進につながるものと期待しています。

本セミナーは、3か月に一度の頻度で開催し、毎回2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題をお聞きいただけます。また、交流会では講師の先生と直接お話しいただけます。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日時：2018年3月8日（木）15:00～18:00

会場：ナレッジキャピタル カンファレンスルーム (B02)
(グランフロント大阪 タワーB 10階)

地図：<https://www.kc-space.jp/accessmap/conference/#jump>

参加費：無料（交流会：1,000円）

主催：NPO法人 近畿バイオインダストリー振興会議・公益財団法人 都市活力研究所

共催：NPO法人 バイオグリッドセンター関西

後援：関西医薬品協会

講演 I 15:00-16:00

「眼と iPS 細胞の未来」

大阪大学大学院医学系研究科 脳神経感覚器外科学（眼科学）

教授 西田 幸二

近年産学官が連携して、再生医療の実用化に向けたプロジェクトが展開されており、眼疾患、骨疾患、心不全、肝不全、糖尿病、パーキンソン病、脊髄損傷など、種々の難治性疾病の治療も夢物語ではなくなってきた。この背景にあるのが幹細胞やバイオマテリアルの基盤的な研究の発展である。殊に網膜や角膜等の眼組織には大きな期待が寄せられている。角膜においてはすでに一部の疾患に対して、我が国で世界に先んじて再生治療法の臨床試験が開始されている。また、網膜疾患についても胚性幹細胞を用いた初めての治験が米国で進められているところであり、我が国においても、人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた網膜の再生医療の臨床治験の計画が進められている。本講演では再生医療の現状について紹介し、臨床への実現化という視点から、眼疾患の再生医療の開発がどのステージにあるかをお話したい。

講演Ⅱ 16:00-17:00

「向社会性の脳内メカニズムとストレス」

情報通信研究機構（NICT）脳情報通信融合研究センター

脳情報工学研究室 研究マネージャー 春野 雅彦

自己の利得を犠牲にして他者の利便を計る向社会行動はヒトをヒトたらしめる最も基本的な行動の一つである。哲学、心理学、経済学などで長年研究の対象とされてきたが、21世紀に入り科学的な見地から脳のメカニズムが調べられる様になった。我々は脳の前頭前野と、扁桃核や側坐核といった皮質下の構造が異なる形で向社会行動に参与することを示してきた。

今回はこれらの研究成果を紹介するとともに、向社会性の神経基盤とストレスや精神疾患との関係についても議論する。

17:00-18:00 交流会・名刺交換会

申込先：参加希望者は2018年3月7日（水）までに、公益財団法人都市活力研究所のWEBサイトからお申込みください。ただし、定員（70名）に達し次第、締め切らせていただきます。

URL：<http://www.urban-ii.or.jp/>

問合先：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-4963-2107（梅村、松村、大嶋）
公益財団法人都市活力研究所 電話：06-6359-1322（味村、安藤）